

エレクトロニクスサイエティ

エレクトロニクスサイエティ 会長 高橋 浩

エレクトロニクスサイエティでは、マイクロ波・ミリ波フォトニクス研究専門委員会（略称 MWP）とテラヘルツ応用システム特別研究専門委員会（略称 THz）を合併し、2022年4月1日にマイクロ波テラヘルツ光電子技術研究専門委員会（略称 MWPTHz）が発足することになりました。無線通信における搬送波の高周波数化の研究と、通信だけでなくセンシング、イメージング、材料分析など様々な応用開拓が盛んなテラヘルツ波研究の境界がなくなってきています。両分野の研究者が同一研究会で交流することにより、それぞれの知見を交換し議論が活発になり、両分野が更に活性化することを狙っています。新型コロナウイルス感染症のため従来の対面での研究会を開催しづらい状況ではありますが、オンライン会議システムを活用して“密”な議論を重ね、皆様の御研究がより一層進むことを期待しております。新しい研究会に積極的に御参加下さいますようお願い申し上げます。

——研究専門委員会合併について——

●マイクロ波テラヘルツ光電子技術研究専門委員会 (MWPTHz)

委員長 菅野敦史

マイクロ波・ミリ波フォトニクス研究専門委員会（略称 MWP 研）とテラヘルツ応用システム特別研究専門委員会（略称 THz 研）が2022年4月に統合しマイクロ波テラヘルツ光電子技術研究専門委員会が発足します。略称も新たに MWPTHz 研としてスタート致しますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

MWP 研究専門委員会は、マイクロ波やミリ波などの電波とフォトニクス技術の融合領域について素材からシステム、その応用までを含む幅広い研究分野をターゲットとし、また、THz 特別研究専門委員会は、未開拓周波数帯であるテラヘルツ電磁波を積極的に利用する幅広い研究分野について研究会開催などを推進してまいりました。近年の無線システムのブロードバンド化の進展、フォトニクスシステムにおけるデジタル信号処理技術の活用など、「光・無線融合」の技術的トレンドが急速に進展しており、今後、マイクロ波・ミリ波フォトニクス技術とテラヘルツ波技術の融合は更に進んでいくものと考えられます。そのため、従来の枠組みを拡張し、マイクロ波からテラヘルツ波帯までの電磁波とフォトニクス技術の融合領域を統一的に議論する場として、研究専門委員会を統合致します。今後とも会員の皆様にはマイクロ波テラヘルツ光電子技術研究専門委員会への御支援・御協力をよろしくお願い致します。

本研究専門委員会で取り扱う主な分野：

- ・フォトニクス技術によるマイクロ波・ミリ波・テラヘルツ波の発生・検知・計測技術
- ・フォトニックネットワークと協調したマイクロ波・ミリ波・テラヘルツ波無線システム
- ・テラヘルツ電磁波の発生・検出及び制御に関する技術
- ・テラヘルツ電磁波に係わる宇宙／地球観測技術の開発と応用

新研究専門委員会名称：マイクロ波テラヘルツ光電子技術研究専門委員会

新研究会名称：マイクロ波テラヘルツ光電子技術研究会

英文名称：Technical Committee on Microwave Photonics and Terahertz Photonic-Electronic Technologies

新略記号：MWPTHz

変更時期：2022年4月

